

ほほえみ

笠間市
文化協会
会報

第19号

発行日 2023・令和5年3月1日

編集・発行 笠間市文化協会
発行責任者 会長 枝川良雄
事務局 FAX 0296-78-0948



たばこの花 (関連文 P6～7 参照)

もくじ

- 第14回You・遊文化スクール 茶の湯体験・和洋芸術文化鑑賞会
 総会行事報告 2～3 P
 - 訪問インタビュー 高橋ヒロ子さん 4～5 P
 - J T日本たばこ産業(株)友部工場 視察研修会 6～7P
 - 新入会員紹介・編集後記 8 P

第14回 You・遊文化スクール

茶の湯体験・和洋芸術文化鑑賞会

昨年11月12日、「表千家わび茶」の皆さんにより、立礼での「茶の湯体験」をロビーで開催し、3階ホールで「太純乃会」の皆さんにより日本舞踊 長唄「松の緑」「藤娘」「岸の柳」と、小林萌里さんのピアノ独奏でムソルグスキー作曲「展覧会の絵」が披露されお楽しみいただきました。

茶の湯体験

表千家わび茶

参加する事が決まり、一番に気をつけた事はコロナです。感染対策を徹底し、お客様の手の消毒はもちろんの事、茶器は熱湯を通して紙茶巾で清め、御菓子はケースの



ままお出しする等、本来の型から少し外れましたが、安全を心掛けた。初めて体験された方、前回も楽しかったと上手に茶筌を振る兄弟の方、特に海外で活躍されている

描かれた抹茶碗での一服に、茶道のおもてなしの心を楽しんで戴けたかと思えます。協会の皆様にお手伝い戴き、盛会裏に終える事が出来ました。(表千家わび茶 貞広 宗可)

親子交流・三世交代・体験型文化祭 和洋芸術文化鑑賞会

日本舞踊 太純乃会
長唄「松の緑」「藤娘」「岸の柳」

ピアノ独奏 小林萌里 ムソルグスキー作曲「展覧会の絵」

2022年
11月12日(土)
14:00開演 (13:30開場)
友部公民館 大ホール(3階)

担当 わび茶
13:00~
1階 ロビー (先着50名)

ピアノ奏者の小林萌里さんの初体験のお点前は、日本文化の一端に触れて戴いたのではと思いませんか。皆で持ち寄ったスキヤキや野紺菊、リンドウなどたっぷりの野草、柚子や蕪が

日本舞踊 太純乃会

第14回YOU・遊文化スクールの「和洋芸術文化鑑賞会」に参加させて頂きましてありがとうございます。

コロナ禍によって催し事も遠のいていた中、久しぶりの出演でしたので、手作りの舞台であっても出来るだけ本格的な日本舞踊の舞台に近づけられる様に、演目や衣裳に気を配りました。また、足を運んで下さるお客様が、日本舞踊の世界を少しでも感じ取って頂きます事を念頭に、共演者一同、今

総会行事 報告

コロナ禍に悩まされて7月9日の開催となった総会は、初の試みで開会前に協会未加盟の文化活動

回の開催を楽しみに稽古や衣裳合わせ等に励んでまいりました。終演後、「初めて日本舞踊を見てとても良かった」などの嬉しい感想もいただきました。今回、様々な人との出会いによって、新たに心の彩りを与えて下さった皆様に感謝申し上げます。

(太純乃会代表 花柳太純乃)

ピアノ独奏

小林萌里

この度、初めて笠間市文化協会のイベントに出演させていただきましたが、市民の皆様が気軽に出来る事ができる機会、本当に素晴らしい企画だと感じました。演奏に集中できるように、様々な事をお手伝いいただき、当日は気持ちよく演奏させていただきました。誠にありがとうございます。

私の世代の多くの仲間にも、文化協会の事を知っていただけたらと伝えていけたらと思っております。本当にありがとうございます。



茶の湯体験中の萌里さん



団体との共催イベント(アルパ奏者の森真由美さんの演奏会と、共催団体の活動紹介)を、市民の皆様とともに楽しみたいいただきました。イベント終了後に総会が開催され、前年度の事業・決算の報告、今年度の事業計画案・予算案が審議の上承認を得ました。運営全般の質疑の中で、機関紙(会報)のあり方について質問・意見も提示されました。

で案内することとなります。綴られた紙面に歴代の会報編集委員の皆様(働きを垣間見ることが出来ます。市内の文化活動を紹介する唯一の機関紙であり、市内の文化活動の経過を探る上で拠り所となるものでもあります。そのため、市立図書館で保管の上、情報提供とともに調査の際に活用されるよう利用に備えてあります。様々な形で活動を行う市民の皆様と、様々な形で連携して活動ができるよう努めて参ります。どうぞ、ご参加とご協力をお願い申し上げます。

南米パラグアイの音色 アルパ演奏会

アルパ(奏者) 森 万由美(もり まゆみ)プロフィール
2003年アルパを始め、2008年11月、アルパの本場パラグアイで行われた生涯一度しか出場できない「グアラニ・レ・タカレシエ」国際音楽コンクールに出場し、外国人部門優勝、総合優勝、同時に名誉ある「フェリクス・ベレス・カルドソ賞」受賞。アルパ・ホルディエリ・ニコラス・カザジエロ賞に就き、帰国後、四季文化館での演奏リサイタルや茨城文化芸術財団主催「アーティスト・アワード」で大賞を受賞。



7月9日(土)

13:30~14:20
友部公民館 大ホール(3階)

本演奏会は、新型コロナウイルス感染症予防、及び感染拡大防止対策を講じて開催します。
*ご来場の際は、発熱や体調不良でないこと、入館時の検温・アルコール消毒、マスクの着用・咳エチケットなどにご協力願います。

お問い合わせ先 090-1804-4995 (松川)

男女共同参画・共生つばさの会 四つ葉のクローバーの会 笠間市文化協会

令和4年度総会イベントチラシ

書館でも毎年展示させて載せておられます。

平成15年、中村国利氏逝去。氏生前は、道東・十日町・白馬・佐渡・佐貫湖・裏磐梯等撮影会が企画され、希望者参加で各地の写真家の案内で撮影を楽しみました。

その後は、会員で写真を勉強し、力を付けられた宮澤靖氏を中心に活動。現在に至っております。新しく発足した会でも親睦をかねて、1〜2泊で裏磐梯・美ヶ原・柵川・鮫川等の撮影会を楽しんで来ました。現在はコロナ蔓延で、県内日帰りになっていました。

独り又2、3人で、美しい被写体を求め出かけて撮られた素晴らしい作品が例会で披露されます。かつて、私が通い撮影した地での作品が懐かしく、まだ知らない地に行ってみたい思いに駆られます。楽しいひと時です。

写真展は、毎回つくば美術館で本展。自由テーマの部、会としてのテーマ茨城の自然の部の2部門で70〜80点を出品。友部図書館には、会場に展示できる30点あまりを展示させて載っております。

今年もつくば美術館・図書館ギャラリーでの写真展が決まっております。又4月には、親しいお仲間楠木順恵さんの洋画、枝川良

と水の冬景色に魅せられ、夢中で数冬になるのを待ち構え通いました。

そんな中で心に響く何気ない風景、庭や野に咲く花々に語り掛けながら光線を大事にしてシャッターを切ってきました。

夫はいつも私の希望する撮影地へ車を走らせてくれておりましたが、夫も高齢になり免許証返納、出かける事が出来なくなりました。

カメラとは別に、一年中花の絶えない庭が私の目標。これからはこの花々が日差しに映え輝く姿を愛で撮影することを喜びにしました。

主に庭で育て開花した花を地にあるまま又切り花にして、どう撮れば一番晴れてくれるか、バックを大事にアチこち歩きまわり、動かしては光線を待ち、カメラの機能補正を使用して表現しています。

散歩途中に出会う風景も、同じように望む光線の時刻を待ち出かけ撮影です。

私も高齢になり、その撮影もだんだん厳しくなってきました。今まで撮りためた沢山なポジ（フィルム）、デジタルデータを見直してはテーマ毎の唯一冊のアルバムを作ります。

私が高齢になり、体も不自由になって退会も考える時期に来ておりますが、続けてこられるのは仲間の支えがあつてのこと。感謝、感謝です。

撮影への意欲、お仲間との交流、まだ離れる事が出来ません。

何か活動を続ける方へ…?

特に学問を究めたわけでも無く、又社会貢献も無く家庭主婦である私が、家事の合間に楽しんで来た趣味を取り上げて戴きました。

名も無き主婦のこんな余生の過ごし方もあるのかと、お話いたしました。おかげさまで、今まで積み重ねてきた私の半生を振り返る機会をあたえて戴き有り難うございました。

▲作品展紹介▼

- ・虹の会 絵画・写真二人展 4月18〜30日 友部図書館
- ・茨城自然写真の会写真展 6月26〜7月2日 つくば美術館
- 8月22〜9月3日 友部図書館

<高橋ヒロ子さんプロフィール>

福岡県出身。夫の仕事で、北海道・兵庫・熊本・古河…各地で生活。写真に取り組み始めたのは、夫退職後友部を終の住み家と決めた時…。悠遊あおい・読売写真クラブ・茨城写真連盟・茨城自然写真の会に所属。茨城県芸術祭・水戸市美術展写真の部入選、他。

現在は、茨城自然写真の会のみ所属。

水戸市、友部図書館、つくば美術館などで写真展に参加。コンテスト応募、仲間での写真展等多数。作品集「茨城自然写真の会創立5周年記念写真集『自然の美を求めて』」「茨城自然写真の会創立10周年記念写真集『自然の美を求めて』」BeeBooks など。

個人での作品展は、友部図書館ギャラリーで「花と風景写真展」。夫秀男と友部図書館ギャラリーで二人展2回。古喜展（古喜は古希をもじったもの）。喜寿彫る・撮る展（共に秀男=仏像彫刻・篆刻・スケッチ等、ヒロ子=写真）



高橋ヒロ子さん
訪問インタビュー

淡い色彩の花の写真、友部図書館ギャラリーの写真展でご覧頂いた方もおありかと…。長年写真撮影や作品発表を続ける高橋さんにお話を伺いました。（取材1月）

写真を始められたきっかけは？

父の趣味が「写真」で、カメラがいつも身近にありました。

子育てが一段落した頃、父が亡くなり父のカメラが形見として私の手元に来ました。

それをきっかけに友部公民館の写真教室に入り、芸文カルチャースクールで学び始めました。又、写真雑誌「写真ライフ」に応募、その中の講評を参考にしてみました。

写真の世界を系統的に学んだのでは無く、ただただ撮りなさい！から始まり、夢中になり30余年続いております。

どのような写真を撮られて…?

最初は花・風景・祭り・行事等々、何にでもカメラを向けていました。自然と花のある世界と自然風景に絞られて来ました。奥日光の雪

と水の冬景色に魅せられ、夢中で数冬になるのを待ち構え通いました。

そんな中で心に響く何気ない風景、庭や野に咲く花々に語り掛けながら光線を大事にしてシャッターを切ってきました。

夫はいつも私の希望する撮影地へ車を走らせてくれておりましたが、夫も高齢になり免許証返納、出かける事が出来なくなりました。

カメラとは別に、一年中花の絶えない庭が私の目標。これからはこの花々が日差しに映え輝く姿を愛で撮影することを喜びにしました。

主に庭で育て開花した花を地にあるまま又切り花にして、どう撮れば一番晴れてくれるか、バックを大事にアチこち歩きまわり、動かしては光線を待ち、カメラの機能補正を使用して表現しています。

散歩途中に出会う風景も、同じように望む光線の時刻を待ち出かけ撮影です。

私も高齢になり、その撮影もだんだん厳しくなってきました。今まで撮りためた沢山なポジ（フィルム）、デジタルデータを見直してはテーマ毎の唯一冊のアルバムを作ります。

私が高齢になり、体も不自由になって退会も考える時期に来ておりますが、続けてこられるのは仲間の支えがあつてのこと。感謝、感謝です。

撮影への意欲、お仲間との交流、まだ離れる事が出来ません。

何か活動を続ける方へ…?

特に学問を究めたわけでも無く、又社会貢献も無く家庭主婦である私が、家事の合間に楽しんで来た趣味を取り上げて戴きました。

名も無き主婦のこんな余生の過ごし方もあるのかと、お話いたしました。おかげさまで、今まで積み重ねてきた私の半生を振り返る機会をあたえて戴き有り難うございました。

▲作品展紹介▼

- ・虹の会 絵画・写真二人展 4月18〜30日 友部図書館
- ・茨城自然写真の会写真展 6月26〜7月2日 つくば美術館
- 8月22〜9月3日 友部図書館

ムを作り、季節に合わせた花の写真を使って、カレンダーを作っている方への暮れの贈り物にしています。

写真での出会い・活動で今に続くことは？

茨城自然写真の会は、自然の美を求め、①健康 ②コミュニケーション ③写真の楽しみ をモットーに、日本写真家協会中村国利氏が立ち上げられた集まりです。

第一回写真展が、芸文センターギャラリーで開催され、丁度芸文に通って見ることが出来ました。あまりの素晴らしさに感激、即入会を決めたのが最初です。

写真展も第3回から毎回参加し、昨年33回を迎え、例年通り友部図書館でも皆様にみて戴きました。

第5回と10回の写真展を記念して写真集「自然の美を求めて」を出版、銀座鳩居堂にあるコンタックスギャラリーで写真展が開催され参加しました。

毎回土浦・龍ヶ崎・古河・つくば等で巡回展示し見て戴きました。

例会は、各会員自由に撮影したポジを持ち寄つての講評でした。

平成9年第8回からは、友部図



JT日本たばこ産業(株)

友部工場

友部工場は、国内に所在する4工場の一つで、JR友部駅北口広場の東側に立地しています。

江戸時代から続く葉たばこの生産地に近く、近隣の葉たばこを加工するため、1934年(昭和9年)この地に、「水戸葉たばこ再乾燥工場」として新設されたのが始まりです。今年で創立90年を迎えます。(参照 友部工場略年表・水府たばこ) 1985年(昭和60年)民営化やその後の医薬品、加工食品などへの事業展開とともに、大きなグループ組織の一翼を担っています。

北口広場には、かつて「転車場」という扇形の引き込み線があり、SLなどの機関車の方向転換の場となっていました。また、工場の駅側には、鉄道輸送のための引き



込み線がありました。

工場の東側には、営林署の友部苗畑が広がっていました。現在は、児童館や高齢者施設、市立病院や保険センター、県営アパートなどが設置されて市民生活を支えています。

友部工場略年表

- 1934年(S9) 水戸葉たばこ再乾燥工場として新設
- 1943〜48年(S18〜S23) 一時稼働休止
- 1948年(S23) 稼働再開
- 1949年(S24) 日本専売公社
- 友部葉たばこ再乾燥工場
- 1965年(S40) 友部原料工場
- 1978年(S53) 友部工場へ機能移転(名称変更)
- 1979年(S54) たばこ原料を加工する工場として本格稼働
- 1985年(S60) 民営化
- 2018年(H30) 友部工場発足 85周年

水府たばこ

茨城では、江戸時代初頭から始まったと云われるたばこの栽培。発祥の地は二説あり、現在の常陸太田市金砂郷地区と栃木県下野市とされる。江戸後期になると薩摩の国分種が伝わり、水戸藩に耕

作が広がった。後に「水府たばこ」として全国にも名を馳せて、国内三大銘葉とされたと云う。

明治期には、皇室への献上品ともなったとのこと。(水府・国分・秦野)

「常陸秋そば」で蕎麦の産地となった背景には、たばこの連作障害を防ぐために「そば」を作付してきたことによることも。

当地方でも、たばこの生産が盛んに行われて、畑の様子をご覧になった方も。また、専用の乾燥室を持つ農家も数多く見られた。

県境を超えて、隣の茂木町の駅近くにも葉たばこの加工施設があり、水府地区(水郡線野上原)との物流のために鉄道の敷設計画があったとのこと。茂木駅から先の廃線跡では、例年5月の連休に「廃線ウォーク」のイベントが行われる。

友部工場 視察研修会

今回は市内で...と、長年この地で操業される友部工場さんのご理解とご協力を得て実現の運びとなりました。

コロナ禍で、当初の開催時期から何度も延期となりましたが、その都度様々なご配慮を戴き、誠にありがとうございました。

当日は、丁寧なご案内や随所にお気遣いを戴き、参加者一同感激の中研修会ができました。「たばこ」を巡る地域の産業としての成り立ちや経過、この地での操業の様子や現在の稼働状況など、理解を深め再認識する良い機会を戴きました。貴重な実物の「たばこの花」を鉢植えで準備していただきました。感謝申し上げます。ありがとうございました。



「たばこの花」

JT友部工場 訪問記

「食品工場だと思っていきますから。」「お客さまが、直接口にするものですから、いつも『食品を作っているんだ。』という意識でいます。」案内してくださった方々どなたとお話ししても、皆さん同じように締めくくられました。

2022年7月14日、小雨の降る午前中、JT友部工場さんの見学会に参加いたしました。

まずは、座学でスタート。スクリーンに地図や写真などを投影しながら、たばこの栽培から収穫された葉がたばこになるまでの過程をわかりやすく説明していただきました。

「水府たばこ」。初耳でした。皇室献上たばこの産地であったことなど。たしかに以前、市内で葉っぱが大きい畑を車窓から見つけて、家族から「たばこ」だと教わったことを思い出しました。気になる方は、ぜひスマホなどで検索してみてください。

現物の原料(乾燥したたばこの葉)も見せていただきました。たばこの原料の状態で見ると、もちろん初めてです。高級な乾燥昆布みたいに束にしてくくられています。確かに独特の香りがし

ます。

さらに、たばこの花。ご存じですか? 室内に鉢植えを用意していただいていた。初めて見ました。可憐できれいな花なのです。でも実際の栽培では、葉に栄養が行くように花は切り落としてしまうとのこと。花を見られるのは、実は貴重な体験なのです。

さて、いよいよ150名(グループ企業の社員を含めて)が働いているとしゃるとお聞きした工場見学です。

先に見学を済ませた班と交替です。異物・ホコリなどを工場内に持ち込まないように、専用の帽子に上着を着用。ズボンのすそも道具で止めてからようやく見学です。

とにかく広くて、通路もわかりやすいです。たばこ原料の工場ですから、完成されたたばこを見られるわけはありませんが、最新の「工場」らしく、原材料は、機械と機械の間の移動から何から人が直接手に触れることもなく、いい意味で「工場らしくない清潔感」があります。

ただし、やはり工場ですから機械の発する音は大きくて、普通だった話声は聞こえないほどですが、事前に渡されたヘッドセッ

ト(イヤホン)で、説明してくれる声ははっきり聞くことができました。

外部から異物も持ち込ませないと同時に、外にも出さないという事もお聞きしました。「嫌がられるかな」と思いながら聞いてみました。「煙突からは何が?」「排熱や蒸気ですから、安心していただけて結構です。」とニコリ。

最後に「JTさんといえば全国区ですから、皆さん、全国からきているわけですね。茨城がいいところだと思ってくれるといいんですけどね。」とても住みやすい、いい所ですよ。気に入ってます。」と言ってもらって、とても気分良く見学をおえることができました。

今回の見学のために、様々な形で準備をして受け入れをありがとうございました。ありがとうございます。地元へのアプロ



笠間市文化協会様 JT Tomobe Factory 来工記念 令和4年7月14日

路沿いを電飾で夜を照らしてください。とてもきれいですよね。ありがとうございます。

(「名曲を楽しむ会」会員 西山華幸)

ピアニスト

小林萌里

東京音楽大学卒。ヤングアーティストピアノコンクール第20回G部門銀賞(最高位)など複数のコンクールに入選・入賞。茨城県新人演奏会、第29回茨城の名手・名歌手たち、茨城応援コンサート等に出演。2015年にパプロ・シィレルサマータンゴアカデミー、2017〜18年にStowe Tango Music Festival(米国)に参加。2019年長崎県新上五島町の町制15周年記念事業にてソロで演奏。2019年にドイツ・スイス・



アルゼンチンにて現地の演奏家達と複数のコンサートに出演。

2022年に四季文化館の「みものれ」(小美玉市)の20周年記念演奏会に、自身のタンゴ五重奏で出演。

特にアルゼンチンタンゴの演奏に力を入れており、かさま歴史交流館井筒屋や地域交流センターともべでの月1回の演奏会企画など、コロナ禍は茨城県内において地元で音楽が根付く取り組みなども県内各地で実施中。2022年ムソルグスキー作曲「展覧会の絵」を陶芸とピアノをコラボした演奏会を開催。笠間市でタンゴの大編成オルケスタ企画も実施。2023年は、和楽器とのコラボを開催中。

ともべ短歌教室

私達の会は、平成4年4月に結成されました。

今年、31年目に入ります。

以前、文化協会に入会していましたが、都合により退会してあり、また再加入させていただくことになりました。

短歌という堅いイメージをもたれている方も多いと思いますが、私達の教室は和気あいあいの

雰囲気をもつ教室です。

友部公民館で月に1回、第3水曜日の9時半〜12時まで開いており、講師の先生が初歩的なことから分かり易く添削をしてくださり、勉強とお喋りを楽しんでおります。時には話が弾んで脱線することもありますが…。

年1回、友部短歌会から編集発行される「合同歌集」にも参加させていただいており、一年の締め括りのような形になっております。

毎日の生活の中でふつと感じたこと、残しておきたい思いなど、31文字の日記のように歌ってみませんか。そして張りのある毎日を送りませんか。お気軽に見学に来てください。お待ちしております。どうぞ、よろしく願っています。(栗原のぶ子)



編集後記

コロナウイルスの発生以降、文化協会も運営の難しさを強いられました。そのような中で今年度は、You・遊文化スクール、研修・見学会等充実した事業が行われました。

JT日本たばこ産業(株)友部工場の視察研修会は、友部工場のご厚意により21名の参加者をもって行われました。工場内は、とてもいい香りに包まれていたことが印象に残っています。

You・遊文化スクールでは、茶の湯体験や、太純乃会による日本舞踊が行われました。我々が普段あまり聴くことのない長唄による美しくも格調高い日本舞踊に心を奪われました。このような伝統ある芸術は、今後もしっかりと残していきたいと感じました。

また、小林萌里さんのピアノ演奏会では、ムソルグスキー作曲の「展覧会の絵」が演奏されました。ムソルグスキーの友人の画家ハルトマンの回顧展をみて作曲されたこととされ、ハルトマンの暗い絵を思わせる演奏は十分納得できるものでした。

訪問インタビューは、高橋ヒロ子さんに写真に纏わるお話を伺いました。

お読み戴きありがとうございます。ご感想などお寄せ願えれば幸いです。(郡司勝文)